

RS3PE

悪性腫瘍の合併

(paraneoplastic RS3PE syndrome)

- ① RS3PE症候群はリウマチ性多発筋痛症とともに腫瘍随伴性症候群の一つとして知られており、これまでに、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、前立腺がん、悪性リンパ腫、白血病、などが報告されている。固形がんでは腺がんが多い。
- ② 発熱、悪液質、体重減少などの全身症状の出現をみる場合やステロイドに対する反応が不良である場合、再発例では悪性腫瘍の検索が必要である。
- ③ 炎症反応高値例、MMP-3高値例（400～700ng/ml）男性で、悪性腫瘍合併が多い。（長崎大学）
- ④ RS3PE症候群発症時にすでに悪性腫瘍が合併している症例はMMP-3値が高い。
- ⑤ 悪性腫瘍を合併していないRS3PEの平均血清MMP-3濃度が114.7ng/mlであるのに対して悪性腫瘍を合併したRS3PEの平均血清MMP-3濃度は437.3ng/mlと有意に高い。
- ⑥ RS3PE発症後しばらくして（1年以降）悪性腫瘍が確認されている症例では、血清MMP-3濃度はそれほど高くなく、正常範囲内であることもある。
- ⑦ RS3PEと悪性腫瘍とでは、60%が悪性腫瘍の方がRS3PEより先行していた。（Cantini）
- ⑧ また、RS3PE発症後1～4年でも悪性腫瘍は発症するため、経過観察の必要がある。（Rusell）